

『知ろう・愛そう・作ろう』箕面市生涯学習指針(2022-2024)

1 箕面市がめざす生涯学習社会について

箕面市がめざす生涯学習社会について、箕面市生涯学習推進基本計画(以下「基本計画」)では、「生涯学習を心とからだの栄養に(自発的学習・生きがい・自己実現)」「社会を知り 夢を描き 仲間と集う(社会とのつながり)」「地域に活かす 学びを活かす(地域環境)」「ふるさと感じ 箕面市の未来を拓く(文化の継承・創造)」と定義し、これは生涯学習の普遍的な要素として、市の生涯学習施策の礎となっています。

この普遍的な要素を継承しつつ、時代に合った新たな課題への対応が必要となることから、『知ろう・愛そう・作ろう』を新たなキーワードに、市民が箕面市に愛着を持ち、生涯学習で得た知識や経験を、地域の課題解決と将来のまちづくりに生かす社会をめざします。

「子どもは大人の背中を見て育ちます。では、大人は誰の姿を見て育つのでしょうか？」

学びは子どもだけでなく大人にも必要です。この視点に立ち、幼児期から高齢期まで障害の有無などに関わらず、すべての市民に、いつでも、どこでも、だれでも、学びたいことを学べるよう、生涯学習・社会教育の機会が提供される社会をめざします。

2 箕面市生涯学習指針について

箕面市教育委員会では、学校教育、子育て、生涯学習の3つの分野について、基本方向を示す箕面市教育大綱を策定しており、生涯学習分野については、「知りたい、学びたい」「深めたい、活かしたい」「つながりたい、広げたい、協働したい」「支援・推進してほしい」の4つの観点でニーズを分類し、各ニーズに対応する生涯学習施策を展開しています。今期大綱(2021-2024)の策定と同時期に基本計画の期間が終了を迎えたことから、本市の生涯学習に関する基本方向を踏まえた箕面市生涯学習指針を新たに策定するため、箕面市生涯学習審議会へ諮問を行いました。この諮問を受け、同審議会及び社会教育委員会議で、子どもから大人まで学びの機会を充実するといった観点から生涯学習施策に関する議論が行われ、箕面市生涯学習指針(案)が答申されました。箕面市教育委員会は本答申を踏まえ箕面市生涯学習指針(2022-2024)を策定し、これに基づき生涯学習施策を推進します。

1 知りたい、学びたい

①豊富な学び、②ニーズの把握・反映、③学習情報の提供

⇒ アンケートなどを通じて個別のニーズを把握し、学習機会の充実に活用します。さらに学習情報を幅広く周知することで、市民が豊富な学びに触れる機会を充実させます。

- 就職や子育てなどでスポーツから遠ざかっている方がスポーツを再開し、無理なく続けていけるよう、スポーツのつどいや指定管理者主催の各種教室について、帰宅時間に合わせた時間設定や親子で参加できる教室を設けるなどニーズに合わせて開催する。
- 子どもを対象とした箕面の歴史、文化・芸術、自然などの講座を増やし、子どもたちの学びの機会を増やし、子どもが箕面を愛するきっかけを作る。
- SNSを使って就労世代向けの情報発信に取り組むほか、文化財等の保護と併せて、看板設置や親子イベント等観光への活用を行い、文化財に触れる機会を増やす。
- 箕面シニア塾受講の半年後に行うフォローアップ調査の結果をもとに、受講後の学びや活動の継続に結びつく傾向を分析し、定員の拡大や講座内容の見直しを行う。
- 市民満足度調査を活用し、生涯学習講座などを利用していない方のニーズを把握することで、気軽に参加できる場や機会の提供を検討する。

2 深めたい、活かしたい

①体系的学習の提供、②学習成果を生かす、③学校連携・学校支援

⇒ 市民団体や学校、その他関係機関などとの連携により、専門的学習機会の提供や地域人材の更なる活用をはかります。また学習成果を発表する場の提供や市民ボランティア育成後の活動の場のマッチングを行います。

- 大阪大学など包括協定を締結する各大学の特徴や強みを活用した生涯学習講座などを開催するとともに、船場地区で文化・芸術・芸能・国際交流に係る取り組みを進める。
- 生涯学習講座などの受講者が学習成果を活用しやすいよう、既存の団体の紹介を行ったり、地域課題を解決する機会や学校での活動の機会を提供する。
- 箕面に愛着を持ち、学習に興味を持った子どもが、より深く学びを進められるよう大学との包括協定による子ども向け講座などを実施する。

3 つながりたい、広げたい、協働したい

①つながり・交流を広げる、②学びの共有を広げる

⇒ 若い世代の取り込みや新たな活動団体の参加を促進し、持続するつながりを確保します。団体のネットワークの拡大により社会的課題の解決に取り組みます。

- 市民やNPO、その他地域で活動する団体と協働で講座を実施することにより、ネットワークの拡大や持続可能な市民活動を促進する。
- 子育てに関する講座を子育て支援センターの利用者に合わせて行うなど、講座の実施について教育委員会内の他の事業との情報共有をはかり、連携強化に取り組む。
- 世代を超え、生涯にわたってスポーツに親しめるよう、ウォーキングなどの生涯スポーツ、ダンスなどの文化スポーツ、球技などの競技スポーツでの交流を推進する。
- 自治会活動やPTA活動などの社会教育の場を通じて、大人が地域交流のあるまちづくりに積極的に携われるよう情報提供や支援をし、市民の参画を推進する。
- 講師や指導者の養成を通じ、子どもから大人まで学習の場の継続と質の維持をはかる。

4 支援・推進してほしい

①学びを支援する、②学習の場の確保、③推進体制の強化

⇒ 団体が活動する上で抱える課題の解決など支援を行います。ニーズに合わせた時間・会場の選定や設備整備、施設改修などを行います。

- 新たに開館した船場図書館及び船場生涯学習センターをはじめとする各図書館及び各生涯学習センターが、今後も市民にとって利便性の高い施設となるよう利用状況を分析する。
- コロナ禍により高まった安全・安心へのニーズに対応し、オンライン講座の実施などを検討する。また、高齢者などを対象としたスマートフォンの使い方講座を実施するなど、デジタル活用のスキルアップ支援を並行して実施する。
- 子どもが本とふれ合いながら過ごせる図書館での居場所づくりを進めるほか、スケートボードなど新しいスポーツに挑戦する場の確保を進める。